

分類 番号	A1	取組 名称	「丹後の海」の歴史・文化に関する総合的研究
研究代表者：	文学部	職・氏名：	准教授・藤本 仁文
研究担当者：	京都府立大学文学部（小林啓治教授、上杉和央准教授、東昇准教授） 外部分担者・協力者（吉野健一氏、河森一浩氏、小室智子氏、新谷勝行氏、東幸代氏ほか）		
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）	京都府立丹後郷土資料館、宮津市教育委員会、舞鶴市市民文化環境部、舞鶴市郷土資料館、京丹後市教育委員会		
<b>【研究活動の要約】</b>			
<p>本研究は、「海」に注目して、丹後地域の一体性および各地域が持つ独自性を解明することを目的とした。府立大学文学部歴史学科では従来から丹後地域の歴史・文化に関する研究調査を行ってきたが、本研究では「海」という視点を導入することで、これまでの成果を一段高めることを目指した。研究活動の中心は、各地に残る資史料を整理し目録作成を行うことで、舞鶴市多門院区有文書、餘部上村庄屋井上家文書、「宮津船問屋文書」（京都府立丹後郷土資料館所蔵）、京丹後市に残る近代文書などの整理を行った。またそれらが持つ価値を広く知ってもらうために、宮津でシンポジウムを開催し、さらに成果報告書を作成することで府内外への発信にも努めた。</p>			
<b>【研究活動の成果】</b>			
<p>「京都府立大学地域貢献型特別研究成果報告会 in Miyazu」の第1日目シンポジウム「海からみる丹後の歴史・文化」開催した（2017年2月18日（土）、来場者約90名）。京都府立大学から研究代表者の藤本、向井佑介（文学部准教授）、京都府からは吉野健一（京都府立丹後郷土資料館）、各自治体からは小山元孝（京丹後市）・小室智子（舞鶴市）・河森一浩（宮津市）が報告を行い、丹後各地で長年に亘る調査・研究を続けてきた文化財関係職員がその成果報告を共有しあった。また考古学・文献史学・宗教学など多彩な視点から丹後の歴史・文化を考えるシンポジウムを開催することができたといえる。地元で生まれ育ち、その歴史・文化を担ってきた来場者からも貴重な意見が出された。来場者は約90名であったが、その内訳は宮津だけでなく、舞鶴・京丹後はもとより、福知山・綾部・木津川市や鳥取県などからも参加者があった。</p> <p>また報告書として『京都府立大学文化遺産叢書12 「丹後の海」の歴史と文化』を刊行した。12編の論考、4本のコラムにより、従来の当該地域における成果を「海」という共通テーマで総括しなおしている。また「丹後の海」に関わる重要な論点を網羅しており、後学の研究者が調査研究をするための必読書、地元住民・府民が丹後の歴史・文化を学習するための手引き書になる。本誌は府内公立図書館・主要大学のほか、国立国会図書館等にも配布しているものである。</p>			
<b>【研究成果の還元】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年2月18日 宮津市歴史の館・文化ホール 一般来聴者約90名</li> <li>「京都府立大学地域貢献型特別研究成果報告会 in Miyazu」第1日目「海からみる丹後の歴史・文化」</li> <li>・(成果報告書)『京都府立大学文化遺産12 「丹後の海」の歴史と文化』(京都府立大学文学部歴史学科、2017) ※(府大図書館・京都府立京都学・歴史館をはじめ、府内主要図書館で閲覧可)</li> </ul>			
<b>【お問い合わせ先】</b>			
文学部 准教授 藤本 仁文 Tel: 075-703-5259 E-mail: fujimoto@kpu.ac.jp			

参考（イメージ図、活動写真等）

・平成 29 年 2 月 18 日 「京都府立大学地域貢献型特別研究成果報告会 in Miyazu」 第 1 日目「海からみる丹後の歴史・文化の様子（上段の写真は小山元孝氏（京丹後市役所）、下段の写真は藤本）

